

令和5年8月3日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

開催日	令和5年8月3日(木)
場 所	第1委員会室
開 会	午前9時00分
閉 会	午前11時56分
出席委員	
教 育 長	加 藤 裕 之
委 員	阿 部 博 道
委 員	岸 田 玲 子
委 員	岡 田 卓 巳
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	宮 本 知 幸
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	浮 田 康 宏
学 務 課 長	西 村 克 己
指 導 室 長	石 坂 泰
すみだ教育研究所長	宮 本 佳 代 子
地域教育支援課長	大 八 木 努
ひきふね図書館長	有 澤 恵 美 子
教育委員会事務局副参事	山 崎 紀 之

2 議題について

議決事項

議案第33号 令和6年度使用墨田区立小学校教科用図書採択について

議案第34号 令和6年度使用墨田区立特別支援学級用教科用図書採択について

3 会議の概要について

教育長 それでは、本日の教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は、岡田委員にお願いいたします。なお、浅松委員から欠席の旨の届出がありました。また、阿部委員については、先ほど、遅れて出席する旨の連絡がありました。現在、定足数は満たしていますので、教育委員会を進行します。本日は議決事項2件を予定していますが、日程に先立ち、会議の傍聴の取扱

いについてお伝えします。まず、会場については通常よりも傍聴希望者が多いものと想定し、教育委員会室よりも広い第1委員会室を会場といたしました。次に傍聴人の定数ですが、「墨田区教育委員会会議傍聴規則」第3条1項の規定では、定員は10人としていますが、本日の会議については、同条第2項の規定により、一般の傍聴を40人までとし、そのほかに区議会議員及び報道関係者の席も認めることといたしますので、ご承知おき願います。

議決事項第1・・・資料番号【33-1～33-3】

議案第33号「令和6年度使用墨田区立小学校教科用図書採択について」を上程し、指導室長が説明する。

教育長 審議に入る前に、これまでの経過等について確認させていただきます。「墨田区立小・中学校教科用図書採択事務取扱要綱」に基づき、本年5月11日から6月9日までの間、「教科用図書調査委員会」を設置して専門的な調査を行うとともに、6月6日から7月4日までの間、ひきふね図書館にて教科用図書を展示して、ご来場された区民の方々からもご意見をいただきました。5月29日から6月16日までの間には、学校の教員向けに教科用図書の展示会場を2か所設けて展示し、学校ごとの意見を集約し、調査報告書を受け取りました。また、6月12日に「教科用図書採択検討委員会」を立ち上げ、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民の方々からの意見等を参考として、6月30日までの間、計3回の検討委員会を開催し、全ての教科用図書について検討を行いました。そして、7月11日に本検討委員会から報告書を受け取りました。さらに、委員の皆さんには、全ての教科用図書を実際に手にして、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見、教科用図書採択検討委員会採択報告書等にも目を通していただきながら、教科用図書の細部にわたり、検討していただいたところです。なお、本日も会場に教科用図書を用意していますので、必要に応じて確認していただきながら、審議をお願いいたします。また、本日は検討時間が限られていることから、特に推薦したい教科用図書についてご発言いただきますようお願いいたします。次に、審議の順番についてですが、「国語科」から順に11教科13種目について審議します。なお、各教科等の審議の冒頭に、学習指導要領に定める教科ごとの目標等について、指導室長から説明してもらいます。また、採択の審議中に、事務局側で教科用図書の入替えを順次行っていきますので、あらかじめご承知願います。それでは、「国語科」について審議いたします。指導室長、説明をお願いいたします。

指導室長 国語科の目標は「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。（1）日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。（2）日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。（3）言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」となっています。この3つは、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応としたものとなっており、各教科の目標はいずれもこの形で示されています。国語科においては、理解したり表現したりするために必要な語句を身に付け、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする指導や我が国の言語文化に関する指導について改善・充実することが重視されております。現在使用して

いる国語科の教科用図書は、「教育出版株式会社」でございます。全3社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、国語科の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしくお願いたします。

岸田委員 国語に関して、私は光村図書がよいと思います。現在使用しているのは教育出版ですが、昨年度までの区の学習状況調査の結果から、墨田区の児童の国語の学力は向上していると考えられます。このことを踏まえ、光村図書と教育出版を比較しました。光村図書では、まず見通しや目標を持って本文を読ませ、単元のまとめと振り返りにおいて、作品を読む過程で自分が考えたことや感じたこと、そして友達の考えたことや感じたことなどを問う構成となっています。また、自分の記述について、作品のどの部分の叙述を基にして、作中のどこを取り上げ表したのかを問う、非常に難易度の高い構成となっています。それに対して教育出版は、単元のまとめと振り返りで、例えば2年生の上の「伝えたいものはありますか」、また6年生の上の「朗読して伝えたいほかの物語はありますか」などで、「はい」や「いいえ」で答えることのできる質問を用意しています。質問に答えることで、子どもたちが「自分もこの単元を読み、授業に参加できた」という達成感と充実感を味わえ、次の単元につなげることができる工夫がされていると思います。具体的に、5年生の光村図書の246ページ、そして教育出版の107ページを比べてみてください。

教育長 阿部委員が到着しましたので、審議に参加します。岸田委員、続けてください。

岸田委員 同じ「大造じいさんとガン」という題材ですが、光村図書は中心人物の心情や人物同士の関係、様々な視点の読み方があることを問いかけ、物語の魅力はこういう部分なのかと子どもたちに実感させようという趣旨が表れていると思います。文学に興味を持たせるような問いや工夫を設け、日常的な読書活動につながるきっかけとなるような作品を扱っている数は、光村図書は32作品、教育出版は28作品です。光村図書の6年生の111ページに宮沢賢治の「やまなし」があります。同じく6年生の166ページに「鳥獣戯画」があり、これは大変難しいとは思いますが、子どもたちがこれから目にする機会も多くあると思います。「やまなし」に関しては、難しいクラムボンというものが出てきますが、後で宮沢賢治についてや、作品が書かれた経緯の説明もあります。つまり、宮沢賢治は、絵本で多く触れる作家ですが、さらにこの「やまなし」等を通じて、宮沢賢治の作品を知ってみよう、もっと読んでみようという気持ちになるのではないかと思います。以上のことから、私は墨田区の児童の国語力が上昇していることと、そして子どもたちにどんどん本を読んでもらいたいという気持ちから、光村図書を推薦いたします。

教育長 ほかにご意見がある方はいらっしゃいますか。

岡田委員 私も光村図書の採択に賛成です。例えば教育出版4年生の下の26ページと、光村図書の4年生の下の32ページ、どちらも同じ「ごんぎつね」を扱っていますが、教育出版は、フクロウのマスコットが吹き出しで、「ごんの気持ちを詳しく想像して、ごん日記にまとめよう」という分かりやすくテーマを提示しています。その後も教科書下段の方で、「景色や場面が描かれているところからもごんの気持ちが想像できるね、からっと晴れているとどんな気持ちになるかな」と、ある種のヒントを吹き出しに入れながら、子どもたちが順を追ってその誘導に乗るような形で物語を読み解いていける、非常に良い特徴だと思います。一方で、同じ「ごん

ぎつね」を扱った光村図書を見ますと、そういったヒントがなく、問われていること自体はそれほど大きく違わないと思いますが、「どんな気持ちだった」というように、より抽象的に考えさせる内容になっていると思います。これは、もしかすると国語嫌いの子の中には、何を答えてよいのか分からない子も出てきてしまうかもしれませんが、一方で先生の指導によっては、教科書に誘導されずに様々な答えを引き出すことができ、指導の幅が広がると想像します。先ほど岸田委員からも指摘がありましたが、墨田区の子どもたちの国語力が上がっていること、それから教科の先生方の指導力も非常に充実しているという話を伺っていますので、私は光村図書の方がよいと考えています。

教育長 ほかに何かありますか。

阿部委員 私も光村図書の教科書がよろしいと考えます。全般的に、光村図書の方が古典の扱いや、全体的な文章のレベルが少し高い印象を受け、現行の教育出版の方は若干平易な気がします。できれば墨田区の子どもたちの国語力が上がっている状況で、更に充実した内容の学習を進めてもらいたいと思いますので、光村図書を推薦したいと思います。

教育長 岸田委員から話がありましたように、墨田区の子どもたちは国語力が向上しています。今まで使っていた教育出版は、丁寧で教員が授業を行いやすいようになっていますが、子どもたちの学力を更に発展させたいということから光村図書を推薦したいと、皆さんの意見がそろっていますので、「国語科」についての採択をします。国語科の教科用図書は、「光村図書出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、国語科の教科用図書は、「光村図書出版株式会社」を採択することに決定いたします。次に、「書写」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 書写の指導事項は、姿勢、用具、筆順に関する事、字形に関する事、点画の書き方、字形の整え方、字の形や大きさ、字配りなどから構成されております。毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30時間程度を配当することとされております。硬筆につきましては、毛筆との関連を図りながら指導することとしておりまして、特に、手紙を書いたり、記録をとったりするなどの実際の日常生活や様々な教科の学習活動に役立つよう、内容や指導の在り方に改善が図られております。現在使用している書写の教科用図書は、「教育出版株式会社」でございます。全3社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「書写」の教科用図書について、ご意見をよろしくお願いいたします。

岸田委員 私は教育出版を推したいと思います。現在使用しているのは教育出版ですが、書写は、身につけた書写の力を学習活動のどの場面で生かせるか、他の教科との関連や、学んだことが日常生活にどのように関わってくるのかが重要なポイントになると思います。その点、教育出版のレツトライには、例えば1年生の24ページに「書いてみよう」とありますが、生活で生かしていこうとあります。ほかに、必ず国語や他の教科との関連を考え、そして分かりやすくイラストや写真を使って説明しています。何より書写は、楽しみながら「書いて伝える」ことが実感できる教科書がよろしいのではないかと思います。それに対して、光村図書も国語や他教科との関係、それから日常生活とのかかわりには触れていますが、多少文字量が多くなっており、若干苦手と感じる子も出てくるのではないかと思います。4年生の教育出版の28ペ

ージと、光村図書の20ページを比べてみてください。同じ太筆を使う毛筆のページになりますが、教育出版は「書き方のひみつ」という箇所、色をつけて大切なところを強調したり、写真を載せたりしています。それに対して、光村図書は、美しくて使いやすい、「リーフレットの書き方」という形になっています。光村図書は美しい字を求めているのではないかと思います。また、教育出版の4年生の巻末をご覧ください。ここには4年生で学習する漢字の一覧表が出ていますが、書き順が色を分けて分かりやすく、ひらがなの「あいうえお」だけでなく、片仮名でも「アイウエオ」の書き順が載っています。平仮名はみんなきちんと書けていると思いますが、ボランティアで児童館に行った際など、「ま」や「も」の書き順が間違っている子ども意外といて、正しく教えてあげたいと思うことがあります。そういう意味でも、家庭でもこの書写の教科書を使うことで、正しい書き順を学ぶことができると思います。現在は教育出版を使っていますので、教員の方にとっても、そのまま教育出版が使われた方がよいのではないかと思います、推薦します。

教育長 ほかにご意見ございますか。

岡田委員 私も、現行の教育出版の方がよいと思います。時間の関係もありますので、簡単に着目したところをご紹介します。例えば1年生の教育出版6ページ、鉛筆の持ち方という項目があります。ここは、左手での鉛筆の持ち方が掲載され、左利きの子にも配慮された解説があります。また、その前のページには消しゴムの使い方についても丁寧な説明と写真があります。光村図書にも当然同じような「字を書く姿勢」というページがありますが、左手での鉛筆の持ち方については詳しく書いておらず、消しゴムの使い方などについては全く触れていなかったりと、小さな差異かもしれませんが、子どもに寄り添う内容は評価できるのではないかと思います。

教育長 ほかにご意見はございますか。

阿部委員 私も両委員のご意見に賛成ですが、国語の教科書は光村図書を選択したということで、光村図書の国語の教科書との連携は考えなくてよいのかと、少し気がかりな点があります。その辺はいかがでしょうか。

指導室長 各教科書は学習指導要領の内容に基づき構成されていますので、出版社が違うことによって、子どもたちの学習に大きな影響が出てくることはないかと思います。

教育長 それでは、「書写」について採択をします。書写の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、書写の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することに決定いたします。次に、「社会科」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 社会科においては、引き続き伝統・文化等に関する学習を深めつつ、主権者の育成、防災・安全への対応、海洋や国土の理解、グローバル化、産業構造の変化、持続可能社会の形成等に対応した内容を改善・充実することや、深い学びの実現のためには、「社会的な見方、考え方」を用いた考察、構想や説明、議論等の学習活動を充実し、社会との関わりを意識して課題を追及したり解決したりする活動が重視されています。また、6学年では、これまで歴史分野を学習してから政治分野を学習する構成となっていました。今回の改訂で、政治分野を先に学習する形に変更されています。現在使用している社会科の教科用図書は、「教育出版株

式会社」でございます。全3社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「社会科」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願
いいたします。

阿部委員 私は、現行の教育出版と東京書籍の2社に絞り検討しましたが、教育出版を推薦し
たいと考えています。前段として、教科書を選ぶ場合のポイントを自分なりに考えました。ま
ずは子どもたちに社会科へ興味を持ってもらいたい、そして更に関心を広げ、主体的な学習を
してほしいと考えています。そのためには、導入部分でこれから何を学ぶのかを掴みやすいこ
と、説明が平易で分かりやすく、特に写真やイラスト、データなどが、具体的にイメージの湧
くものであること、そして、それぞれの事象や推移がなぜそうなるのか理由を考えながら子
どもたちの関心を引き出せること、そのような学習であれば、子どもたちも大変興味が湧くだ
ろうと考えます。子どもたちが現在生きている社会の仕組みや現象を横軸にして、今につながる
歴史の勉強を縦軸にして、立体的なイメージを抱くことが出来たら、これほど面白い学問はな
いというのが、私個人の経験からの印象です。墨田区の子どもたちは、社会科分野の学力に多
少課題が残っていると言われていました。したがって、先生方にはぜひ教科書を有効に活用して、
社会科が面白く、ためになるということを教えていただきたいと思います。このような観点か
ら、両社の教科書を比較しました。全体的な印象では、教育出版の方が若干情報量が多い印象
を受けます。また、写真やイラストも教育出版の方が多く、カラー写真も多いため、明解な印
象を持ちました。ちなみに、東京書籍は分野別に5・6年生で2分冊になっていますが、分冊
化することで便利になるという印象は受けませんでした。社会科については、写真や
データ等を参照するため、タブレット端末の利用が非常に有効だと思います。実際に二次元コ
ードで幾つか画像を拝見しましたが、内容を更に充実していただければ、より学習が進むので、
その辺の工夫を各社にはお願いしたいと思いました。個別の観点での比較ですが、最初の3年
生で、自分の住んでいる地域を調べることから学習が始まります。地域の暮らしや産業などを
勉強するわけですが、教育出版の場合は横浜市を、東京書籍は福岡市を題材にしていました。
できれば住んでいる東京に近い題材を取り上げた方が分かりやすいのではないかと思います。
4年生では、取り上げる県や地域にそれぞれ特色があり、なかなか甲乙つけ難いところではあ
りますが、やはり教育出版の方がビジュアル面での情報量が多いので、より望ましい印象を受
けました。5年生では、最初に日本の領土・領海、排他的経済水域、あるいは領土に絡む問題
などが説明されていますが、この点も教育出版の方がやや詳しいと思いました。さらに、その
次の項目として、東京書籍は、低い土地、高い土地という土地の高さによる暮らしの違いから
学習が始まり、その次に日本の気候や風土に進むのですが、教育出版は、先に日本の気候から
入り、その後に南から北、併せて低い土地、高い土地の生活、それぞれの作物や産業の違いに
触れています。ここでも、教育出版の分類の方が分かりやすい印象を持ちました。5年生の後
半では、工業、情報、産業、防災などを扱いますが、全般的に教育出版の方がよりビジュアル
面で優れている印象を受けましたが、東京書籍も、「情報を生かす私たち」という項目で情報
リテラシーの学習を取り上げており、ここは大変評価できると思いました。個人的な印象では、
両社とも日本のエネルギー問題にはあまり触れていなかったのが、石油・天然ガスの輸入、原
子力発電の問題等、日本のエネルギーの状況に係る問題提起があってもよいのではないかと
思いました。また、子どもたちが大きくなる頃に日本が直面する地下資源の問題等、様々な

先行きの見通しについても聞かせてあげたいと思いました。6年生では、政治経済、国際関係、歴史の3分野を学びますが、やはり教育出版の方が若干情報量が多く、ビジュアル面でも良い印象を受けました。歴史の分野では、内容で大きな差は感じませんでしたが、教育出版は白黒写真をカラー化して、よりイメージが湧くような工夫をされており、大変面白いと思いました。国際関係については、東京書籍には国連本部や国連機構の旗等、国連について様々な説明がありますが、教育出版は国連総会の議会の写真等、簡単な説明があるだけで、もう少し補充してもよいのではないかと感じました。以上をまとめると、子どもたちに社会に関心を持ってもらうという観点から、そして情報量が多く、ビジュアル面も優れた教育出版が望ましいだろうというのが結論です。

教育長 ほかにございますか。では、私から意見を述べさせていただきます。現在使用している教育出版は、本文の記述が丁寧で、「なぜか」という疑問が残らないように工夫がしてあり、教科書を読んだだけでかなり理解できると思います。他社は、教科書の单元の中に答えが含まれていますが、本文と資料を突合して読むことが必要になると思います。教育出版は、なぜこうなるのかという記述が非常に丁寧ですので、他社へ変える必要はないと考え、私も教育出版を推薦したいと思います。そのほかに何かございますか。

(発言なし)

教育長 それでは、「社会科」について採択をします。社会科の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、社会科の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することに決定いたします。次に、「地図」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 教科用図書としての地図の活用については、社会科の学習を進める上で大切な教材であることはもちろんですが、他教科や日常生活においても地図帳を活用した指導を行い、地図を自在に活用できるようにすることが重視されております。現在使用している地図の教科用図書は、「株式会社帝国書院」でございます。全2社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「地図」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願いいたします。

阿部委員 地図は東京書籍と帝国書院の2社ですが、帝国書院をお勧めしたいと考えます。それぞれが取り扱っている項目に若干濃淡があるようですが、全体として見た場合に、帝国書院の方が地図としての情報量がより多い印象を持ちました。また、地図帳として見た場合に、印刷の色合いや見やすさを比べてみましたが、帝国書院の方が見やすいと感じました。東京書籍は、全体的に色が少し黄色っぽく平面的な印象を受けますが、帝国書院は高地の色を濃くして高さのイメージがつかみやすく、見やすいと思いました。内容については、関東や東京、都心の地図に関して、東京書籍は、45～47ページに縦長の南北の地図がありますが、墨田区から東の部分が地図上から切れてしまっていて、地域の勉強をする上で少し物足りなさを感じました。この点、帝国書院は、墨田区を含め東の部分が広く載っていますので、地域の学習の際に有効活用できるだろうと考えます。世界地図として見た場合に、オーストラリアと太平洋全体が見渡せる地図が帝国書院にはありませんが、東京書籍にはあります。今後、日本の排他的経済水域等を勉強するような場合には、太平洋全体を見渡す地図があった方がよいと思いました。ま

た、東京書籍では日本の歴史における世界の関わりとして、各時代での日本との交流が分かる地図が77ページにあり、これは歴史の授業で使えると思いました。どちらも二次元コードがついており、タブレット端末を使って勉強する際に、地図に表せない様々な情報を利用できると思います。帝国書院の方は、地域の産業や地域に関わる人物の様々なプロットが載っており、とてもイメージが広がる楽しいコンテンツだと思いました。東京書籍は、地図や白地図はタブレットで見られますが、それ以上の情報がないため、もう少し詳しい情報があったらより良いと感じました。ほかにも帝国書院は、様々な統計資料からさらにベストテンを選んで探せる項目もついており、見ると興味が尽きない書籍だと思いました。非常に多くの情報が掲載されているので、子どもたちの関心がどんどん広がり、逆にまとまりがつかなくなる心配してしまうぐらいでした。この点は上手く利用していただきたいと思います。以上、全体的に拝見した結果として、帝国書院を推薦したいと思います。

教育長 ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。それでは、私からも発言させていただきます。子どもたちがつまずきやすいのは、まず方位磁針の使い方だと思うのですが、帝国書院は方位磁針について丁寧に記載しています。東京書籍にももちろん記載はありますが、帝国書院はより基本的なことから説き起こすような説明をしている印象を受けました。また、地図記号を知らないと地図を読み込んでいけませんが、帝国書院は印象が付くようにイラストも描いてあり、子どもたちにとって馴染みやすいと思います。地図記号は、完全に覚えている子どもいますが、覚えるのがなかなか難しいという子どもいます。学習状況調査から社会科に課題が見える墨田区の子どもたちにとっても、帝国書院の方が合っていると思います。東京書籍も写真を効果的に使ったり、巻末の統計資料もすごく工夫されていますが、教員も今の教科書に慣れていると思いますので、現在使っている帝国書院から積極的に変える必要はないと感じます。ほかにご意見はございますか。

岡田委員 私も同意見です。昨今地震などの災害が多い中で、防災についても帝国書院は先生が利用しやすいと思いました。また、大変細かい点ですが、帝国書院は世界地図に縮尺だけでなく、どういう図法で描かれているか必ず書かれています。私自身、なぜページによって大陸の形が微妙に違うのだらうと思う子どもだったので、そうした子がいたときに、発展的な学習をするきっかけとして、あるいは地図に対するリスペクトとして、図法の記載がある点がよいと思いました。

教育長 それでは、「地図」について採択をします。地図の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、地図の教科用図書は、「株式会社帝国書院」を採択することに決定いたします。議事の都合により、ここで委員会を一旦休憩します。なお、再開は午前10時2分とします。

(休憩)

教育長 教育委員会を再開いたします。それでは、引き続きまして、「算数科」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 算数科においては、数学的に考える資質・能力を育成する観点から、実社会との関わりと算数・数学を統合的・発展的に構成していくことを意識して、数学的活動の充実等を図ること、社会生活など様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するため、統計的な内容等の改善・充実を図ることが重視されています。現在使用している算数科の教科用図書は、「学校図書株式会社」でございます。全6社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「算数科」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願います。では、私から意見を述べさせていただきます。先ほど指導室長から説明があったように、現在は学校図書の教科書を使用しています。学校図書は記述が丁寧で、教員も指導がしやすい点はよいのですが、墨田区の子どもたちは、算数の学力がかなり上がってきていますので、もう少し問題演習が欲しい点を考えると、東京書籍を採択すべきと考えます。例えば5年生でつまずきやすい「割合」の単元について、東京書籍と学校図書を比べると、学校図書は説明が丁寧で図も分かりやすいですが、東京書籍は説明の中に応用・発展の視点も入っており、また、教員にとってやることははっきりしていて、指導しやすいと考えられます。子どもたちの理解が段階的に高まるようになっており、なおかつ発展問題にもつながる記述がありますので、東京書籍がよいと思います。ほかに意見のある方はいらっしゃいますか。

阿部委員 私も結論としては、教育長と同じく東京書籍に変更してよいと思います。小さい頃算数があまり得意ではなかった私の経験からすると、学校図書の方が全体的に易しく丁寧に教えている印象を受けました。一方の東京書籍は簡明にできばきと教えていく印象です。例えば学校図書の場合は、項目の最初に、「はてな発見」というコーナーで、これからどういう問題を学ぼうとしているのか、イメージを捉えた上で問題に入る構成になっています。これは、算数が苦手なお子さんにとっては大変良いと思います。しかし、高学年になってくると、もっと端的に問題のポイントを説明して導入したらどうかと思いました。東京書籍の方は、その点二次元コードから読み込むオープニングムービーでこれから学ぶことを紹介しています。こちらの方が今の時代は子どもたちには取っつきやすいのではないかという印象を受けました。実際にタブレット端末で画像を見ますと、東京書籍の方がより体系的で、画像の利用方法を工夫されているように思いました。学校図書はその点はもう少し工夫されてもよいと感じた次第です。ちなみに、学校図書は「考え方モンスター」という9種類のキャラクターがあちこちに出てきますが、このキャラクターがそれぞれの項目にどう関連しているのかが分かりづらい印象を受けました。また、単元ごとの問題数は、学校図書の方が少ない印象を持ちました。ただし、学校図書は6年生で中学校へのかけ橋としてまとめの問題集があり、この点は大変よいと思います。結論としては、両社の教科書それぞれに特色があり、結局これをどう授業に生かすかということに尽きると思います。1点気になるのは、現在使っている学校図書の教科書に慣れている子どもたちにとって、教科書を変更することでプラスなのかマイナスなのか、そこは悩ましいところではあります。実際に墨田区の子どもたちの算数の学力が向上しているということを踏まえ、また東京書籍の方がより簡明で教えやすいというご意見も先生方にあるようなので、ここは思い切って東京書籍に変更し、更なる学力向上を目指していただきたいということで、東京書籍を推薦したいと思います。

教育長 「考え方モンスター」については、これも一つの特色だと思いますが、授業で効果的に使われているのか私も疑問に思いました。すごく面白い発想だとは思いますが、授業で完全に使いこなすのも大変だと思います。委員の方で、ほかに何かご意見のある方はいらっしゃいますか。

(発言する声なし)

教育長 それでは、「算数科」について採択をします。算数科の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、算数科の教科用図書は、「東京書籍株式会社」を採択することに決定いたします。次に、「理科」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 理科においては、知的好奇心や探究心を持ち、自然に親しみ、見通しをもって観察・実験などを行い、その結果を整理し考察するなどの科学的に探究する学習活動の充実や、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連が重視されています。現在使用している理科の教科用図書は、「大日本図書株式会社」でございます。なお、見本本一覧にございます一般社団法人信州教育出版社につきましては、長野県を主においている出版会社のため、見本本が本区へ送付されておりません。したがって、全5社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「理科」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願いいたします。ご意見のある方、いらっしゃいますでしょうか。では、私から意見を述べさせていただきます。現在使用しているのは大日本図書ですが、採択するときにポイントがありました。例えば6年生の「人間の体」で、大日本図書と東京書籍は、構造が複雑なものについてはイラストで見せる工夫がしてあります。人間の内臓は複雑で子どもはなかなかイメージが湧かないですが、写真とイラストを併せる工夫がしてあり、非常に優れていると考えます。また、方位磁針を理解するのが苦手な子どもたちは多いですが、例えば地球から月を見るときに、北を向いても見ることはできません。そのため反対の南を向いて見ますが、地球と月の関係や地球と太陽の関係がどうなっているのか、他社の教科書ではあまり書かれていないことも、大日本図書は配慮して書いてあり、教員が説明しやすいと思います。他社の教科書もすごく魅力的な書き方をしていますが、大日本図書の教科書のままでよいと思います。ほかに意見のある方、いらっしゃいますでしょうか。

阿部委員 私も教育長の意見に賛成で、大日本図書を推薦したいと思います。東京書籍と大日本図書を比べますと、大日本図書の方が、情報量が若干多い印象を持ちました。写真や図版も大きめで、写真とイラストをうまく組み合わせるインパクトのある説明がされていると思います。墨田区の子どもたちは、学力調査で理科はあまり得意な科目ではないと評価されていると思います。理科にまず興味を持ってもらうにはどうしたらよいだろうかと考えますと、実験や観察を通して推論したり、実際に調べたり、現象を解き明かして、その原理原則を導くという科学の面白さに子どもたちが気づいてもらえたら、興味を持ってもらえると思います。そして、例えば実験だけで終わりにせず、調べたこと、あるいは分かったことをきちんと整理し、定着させることが今後の学力向上の課題だろうと考えます。そのためには、まず興味を持たせる導入がなされているか、写真やイラストでビジュアル的に分かりやすい説明をしているかどうか

か、そして項目ごとにまとめや振り返りで定着を図っているかどうか、このような観点で両社を比べてみました。両方ともすばらしい教科書で、なかなか甲乙つけ難い点もありますが、大日本図書の方がやや情報量が多くて詳しいことと、写真やイラストが多くてインパクトがあること、そして、二次元コードから見る画像も、大日本図書の方が具体的な課題に直接つながるようなもので、コンテンツの内容も豊富な印象を受けましたので、ぜひ、それらを授業でうまく使いこなしていただいて、学力向上につなげてほしいと思います。結論としては、大日本図書を推薦したいと思います。

教育長 ほかにご意見はございますか。

(発言なし)

教育長 それでは、「理科」について採択をします。理科の教科用図書は、「大日本図書株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、理科の教科用図書は、「大日本図書株式会社」を採択することに決定いたします。次に、「生活科」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 生活科においては、試行、予測、工夫することなどを通して新たに気づきを生み出すことや、伝え合い表現する学習活動を行うことで学びを振り返り、気付きの質を高めること、生活科を中心としたスタートカリキュラムの工夫により、幼児期の遊びを通した総合的な学びから、より自覚的な学びへと円滑に移行していくことが重視されています。現在使用している生活科の教科用図書は、「学校図書株式会社」でございます。なお、見本本一覧にございます一般社団法人信州教育出版社につきましては、長野県を主においている出版会社のため、見本本が本区へ送付されておりません。したがって、全6社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「生活科」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願います。では、私から述べさせていただきます。現在は学校図書を使用していますが、活動の内容が児童の言葉で示されており、1年生にとっては分かりやすく、親しみも持てる教科書になっていると思います。また、理科の内容が多く、3年生の理科へ展開しやすくなっています。例えば、発芽について、種から順を追って写真を掲載し、成長の過程をつかみやすい構成になっています。さらに、社会科との関係については、内容を教え込むのではなく、子どもたちに考えさせる内容にしており、バランスよく配置されています。やや理科重視の傾向がありますが、今の墨田区の子どもたちの学力の実態からいえば、継続して使うのがよいと考えます。では、ほかに意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

岸田委員 私も学校図書がよいと思います。まず、1年生ですが、最初に「始まりの小学校」という箇所、子どもたちがわくわくどきどきしながら入学し、教室はどこだろう、僕の靴箱はどこかなというイラストが描いてあります。そして、「困ったら相談するんだよ」、「もうこれからはお母さんお父さんを頼るのではなく、自分で解決できるところは解決していこうね」といったことを、イラストを交えてとても分かりやすく説明しています。さらには、「安全な行き帰り」という箇所では「イカのおすし」や町の中の標識にも触れていますので、登下校の安全についてももしっかり教えられると思います。また、アサガオについて、教育長がおっしゃったように、芽が出たところから細かく鮮やかに書いてあります。子どもたちは夏休み前にア

サガオを持って帰ってきますが、生物を育てることがどんなに楽しいか、そして種の不思議なことも学べ、来年も咲くのかなと楽しみもできると思います。墨田区の子どもたちは、若干理科が弱いということですが、1年生から興味を持つことで、3年生の理科につなげていけるとよいと思いますので、私も学校図書を推薦します。

教育長 ほかにご意見はございますか。

(発言なし)

教育長 それでは、「生活科」について採択をします。算数科の教科用図書は、「学校図書株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、生活科の教科用図書は、「学校図書株式会社」を採択することに決定いたします。議事の都合により、ここで教育委員会を一旦休憩します。なお、再開は午前10時40分とします。

(休憩)

教育長 教育委員会を再開いたします。それでは、引き続きまして、「音楽科」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 音楽科においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力を育成すること等の成果を踏まえ、さらに、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてよさや価値等を考えたりしていくこと、また、我が国や郷土の音楽に親しむなどの課題に対応できるよう改善を図ることが重視されています。現在使用している音楽科の教科用図書は、「教育出版株式会社」でございます。全2社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「音楽科」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願います。意見ある方、いらっしゃいますでしょうか。では、私から意見を述べさせていただきます。現在使用している教育出版については、写真やイラストが大きく使われて、見やすいという良さがあります。また、鍵盤ハーモニカの指導の中で、教育出版は実物大で楽器が載っているため、実物の鍵盤ハーモニカを用いずに、教科書で練習することもできます。全体的には、教育出版は基本的に楽譜を使って説明していますが、教育芸術社は図を多用して説明しています。図を使うとわかりやすい面もありますが、楽譜を中心に覚えた方が、今後に生かせると思います。そうした意味でも、教育出版を推薦します。そのほかに何かご意見はございますか。

岸田委員 私も教育出版がよいと思います。お話のありました鍵盤ハーモニカですが、教育出版では、ドレミファソラシドの位置がちゃんと出ています。大きさも実物大ですので、教室でも使うことができると思います。音楽科に関しては、1・2年生は専科の先生ではなく担任の先生が教えますが、担任の先生全員が、音楽が得意なわけではないと思います。3年生になったときに音楽が大嫌いになってはいけませんので、何とか音楽の楽しさを伝える必要があります。例えば教育出版は26ページ、教育芸術社では30ページの「うみ」ですが、同じ歌を歌うにしても、教育出版は字も大きく、そして曲に合わせて体を揺らしながら歌っていこうと書

いてあり、教育芸術社の方は、海の広さを想像しながら歌ってみよう、そして体を動かしてみようというところがあります。割と初めの方ですので、みんなで体を動かしながら楽しく歌って、音楽は楽しいと感じることが必要であり、大切だと思います。教育芸術社は、大変詳しく載っており、例えば6年生の44ページ、「越天楽」、58ページから「W i s h」も出ていますし、60ページでは「いのちの歌」にも触れています。これは音楽好きな児童にとってはとても魅力的なのではないかなと思います。しかし、3・4年生以降の専科の先生のことを考えるよりも、1・2年生で音楽は楽しいと教えていただきたいと思い、教育出版を推薦したいと思います。

教育長 岸田委員から話があった低学年へのアプローチもそうですが、私が受けた印象は、低学年からしっかり楽譜を理解させようとしているのが教育出版だと思います。教育芸術社もよいとは思いますが、5・6年生になる頃を考えると、1年生の頃から、遊びを交えながら興味を持たず形で楽譜を使っていった方がよいと考えました。その点についてはどうですか。

岸田委員 確かに音楽好きな子と嫌いな子が出てくるとは思いますが、実際に学芸会や音楽会を見学しますと、しっかりと自分のパートでリズムを取ったり、楽譜を読む子はアコーディオンを弾いたりしていますので、単に楽しいだけではなく、系統的に学んでいくことは必要だと思います。

教育長 最初は苦手意識を持たないように導入して、柱としては専門的なことを学んでいくイメージを私も持っています。

岸田委員 私も同感です。やはり、1年生から嫌いにならないように、みんなとやるから楽しいという実感を味わってもらいたいと思います。

教育長 ほかにご意見はございますか。

阿部委員 私も教育出版がよいと思いました。きれいな写真等があって、曲をイメージしながら歌うという点で、非常に優れていると思います。選曲については、教育芸術社は何となく私どもの世代にも馴染みがある曲があるとの印象ですが、今のお子さんにとっては、ジブリの歌をはじめ新しい曲が入っている教育出版の方が、興味が湧くのではないかと思います。今のお子さんが興味を持つという意味では、教育出版を推薦したいと考えます。

教育長 ほかに何かご意見はございませんか。

(発言なし)

教育長 それでは、「音楽科」について採択をします。音楽科の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、音楽科の教科用図書は、「教育出版株式会社」を採択することに決定いたします。次に、「図画工作科」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 図画工作科においては、感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質、能力を相互に関連させながら育成できるように内容の改善を図ることや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実が重視されています。現在使用している図画工作科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」でございます。全2社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「図画工作科」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしくお願いいたします。

岡田委員 小学校の図画工作については、自由な発想力を育むことが大事だと考えています。

1・2年生の部分を拝見しますと、日本文教出版では、上巻の16・17ページ、「すなやつちとなかよし」という箇所、単に粘土をこねたり砂で造形するだけではなく、外遊びにつながる具体的なビジュアルのイメージがあったり、42・43ページの「ならべてならべて」では、外へ行って落ち葉や石を並べてみようといったことが分かりやすく載っています。これは子どもたちにとっても、先生にとっても、このように外遊びにつながるのだな、図工は机の上で絵の具や粘土と格闘するだけではないのだなということが分かりやすいと思います。この点でとても好感を持ちました。一方で、こうした発展的な内容は、図工の専科ではない先生にとっては、どのような活動を授業の中に取り入れればよいのか分かりにくいというデメリットもあると思います。開隆堂では、例えば18・19ページを見ると、「あわせて学ぼう」で、特別活動とつながりますとか、21ページでは「あわせて学ぼう国語」で、国語とこんなことがつながるよといったように、他教科とのつながりが具体的に示されている点で、先生方が指導しやすいのではないかと思います。また、冒頭に申し上げたとおり、子どもに自由な発想力を持ってもらうという点において、具体的にどんな活動をするのかイメージが持ちやすいように、ビジュアルがとても大事だと思います。その点、開隆堂は写真がすごくきれいで、1・2年生上巻の14・15ページの粘土の造形の写真は粘土の柔らかさもしっかり表現されており、バリエーションも豊かです。20・21ページでも、手で絵の具を塗った感じなど、素材やテクスチャーを生かした写真が多く、こちらも大変きれいです。こうやって使えるのかと、具体的なイメージを刺激してくれるのではないかと思います。どちらも非常によくできた教科書だと思いますが、私は現行の開隆堂でよいと思います。

教育長 ほかにご意見ある方、いらっしゃいますでしょうか。では、私からも意見を述べさせていただきます。岡田委員が言われたことは、私もそのとおりだと思います。私が特に開隆堂がよいと思う点は、道具の使い方の記載がすごく丁寧な点です。例えばはさみの使い方についても、開隆堂は、まず刃先や刃元について記述があり、柄の前に人さし指をかけて支えにすると切りやすいといった細かい説明や、左利き用のはさみについても示してあります。また、片づける時にはさみについたのりや汚れを拭き取っておくといったことも丁寧に書かれています。紙の切り方についても、体の正面で切るとか、刃元まで入れて切るといった細かい解説があります。また、はさみを人に渡す時は柄の方から渡すといった安全面についてはどの教科書も書いてありますが、「刃を持って渡す」ではなく「柄の方から渡す」と書いてあり、はさみは閉じて渡すということ子ども達が自分で想像できると思います。こうした丁寧な記述が他社より優れていることから、開隆堂の教科書を推薦したいと思います。ほかに何かご意見ある方はいらっしゃいますか。

(発言なし)

教育長 それでは、「図画工作科」について採択をします。図画工作科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、図画工作科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」を採択することに決定いたします。次に、「家庭科」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 家庭科においては、少子高齢社会等の社会の変化や持続可能な社会の構築等に対応

し、家族、家庭生活、幼児、高齢者、食育、日本の食文化、消費者生活や環境に配慮した生活等に関する内容や学習活動の充実が重視されています。現在使用している家庭科の教科用図書は、「開隆堂株式会社」でございます。全2社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「家庭科」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願います。では、私から意見を述べさせていただきます。私は、現在使用している開隆堂を推薦します。特徴的な点は、調理実習等の手順の、全体の流れが見やすいことです。写真やイラストでその場の動きや安全性についての留意点を確認することもでき、授業で使いやすいと思います。東京書籍も各作業を細かく区切り、写真等でも丁寧に説明していますが、ページが折り返してあるため流れがつかみづらく、開隆堂の方が、教員が指導しやすいと思います。また、開隆堂は写真だけでなくイラストも効果的で分かりやすく、その点も優れていると思います。さらに、管理栄養士のインタビューが載っていますが、男性の管理栄養士のインタビューも載っています。子どもたちは、栄養士は女性ばかりだと思っているかもしれませんが、男性の管理栄養士もいると気づくことができ、多様性についての意識づけを行えると思います。ほかに何かご意見ある方はいらっしゃいますか。

岡田委員 私も教育長のご指摘に賛成です。1つ加えますと、ボタンのつけ方というところで、5・6年の開隆堂は24・25ページ、東京書籍は32・33ページになりますが、開隆堂はイラストを使っており、写真よりも見やすく、見開きで作業の流れを追っていける点で、非常に見やすく特徴的なページになっています。東京書籍は動画コンテンツで、右利きと左利きそれぞれのつけ方の動画があり、巻末の4つ穴ボタンのつけ方についても、動画で右利きと左利きそれぞれのつけ方を紹介しており、そのあたりは詳しいです。また、持続可能な社会やお金の使い方について、東京書籍は情報量がとても充実していますが、若干字が多く、子どもたちには取っつきにくいかもしれません。それに比べ、開隆堂は、60ページ辺りだと思いますが、買物の仕方のチャート図が、子どもたちにも非常に入りやすく書かれていると思い、やはり開隆堂がよいと思いました。

教育長 ほかの委員で何かご意見はありませんか。

(発言なし)

教育長 それでは、「家庭科」について採択をします。家庭科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、家庭科の教科用図書は、「開隆堂出版株式会社」を採択することに決定いたします。次に、「保健」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 体育科においては、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現が重視されています。保健の領域におきましては、健康な生活、身体の発育・発達、けがの防止、心の健康及び病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、健康安全の大切さに気付くことができることが重視されています。現在使用している保健の教科用図書は、「株式会社光文書院」でございます。全6社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「保健」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見をよろしく願います。

いたします。

岸田委員 私は、今現在使われている光文書院がよいと思います。光文書院は児童の発達段階を踏まえ、学習したことを実生活や実社会に生かしていくことを重視しています。具体的には、3・4年生になりますが、生活のリズムや思春期の変化について、写真を載せて説明しています。Gakkenも同じような形になっています。特筆すべきは、光文書院の5年生の、18・19ページです。Gakkenでは5・6年、21ページです。どちらも、性と体の変化に対して悩みを持ったときにどうしたらよいか考えていますが、光文書院は、「人との接し方を考えてみよう」で、苦手な人も出てきてもその人を排除するのではなく、相手の立場もあるのだなどと考えながら、距離を取っていくと書いてあります。これは小学生だけではなく、私たち大人にも言えると思います。この方は苦手だと思っても、無視するのではなく、距離を置きながらコミュニケーションを取る方法もあるということです。それに対して、Gakkenは、21ページにありますように、思春期は誰もが悩むものなので、みんなで助け合っていこうとありますが、やはり距離感が大事になってくると思います。月経や精通に関しては、光文書院よりGakkenの方が詳しく書いており、これなら男子も女子もそれぞれ理解できるのではないかと思います。性の悩みについて、光文書院では4年生で、相談の窓口としてお悩みホットラインを紹介しており、Gakkenは様々な相談部門の電話番号等を紹介しています。また、保健において新型コロナウイルスの表記は必要だと考えました。光文書院の5・6年生、46ページを見てください。Gakkenも触れてはいますが、光文書院は感染症と新型コロナウイルスについて1ページ使っています。そして、感染症に関する差別をなくそうと記載しています。新しい感染症が流行すると、誤った情報や不安から差別が起こりやすくなります。周りの人を傷つける言動をできていないか、自分のこととして考えることがとても大切です。「正しい情報を確認して、思いやりを持って行動しましょう」と、僅か5行ですが、これはすごく重い記述だと思います。東京ナンバーの車を見て、東京の人が来たからと、村八分のような思いをしたという報道もありました。決して、今回の新型コロナウイルスでの教訓を忘れてはならないです。そして、過去にはハンセン病もありましたし、新しいウイルスがまた流行するかもしれません。小学校のうちから「正しく恐れる」ということを、いま一度、考えてほしいと思います。光文書院がよいと思いました。

教育長 ほかにご意見はございませんか。では、私からお話したいと思います。私も、現在使っている光文書院を推薦します。岸田委員の話と重なりますが、光文書院は、4年生で性についての悩みを扱っています。こういった内容は、早い段階で取り扱うことで高学年の指導につながります。児童の多様な悩みに対して、身近な題材を取り上げて解決方法を紹介する内容になっています。また、こちらも岸田委員が指摘されていましたが、光文書院の「人との接し方を考えてみよう」という中で、「自分と人との距離感」ということが載っています。こうした自分と人との距離感について学ぶことは、非常に重要だと思います。人が嫌がらないように物事を伝えることが成長するにつれて必要になりますが、距離感について触れている点がこの教科書の特徴だと思います。5年生の内容では、人との接し方についてかなり細かく分類を分けて、なおかつ文字数は少ないので、きちんと子どもたちの頭に入ると思います。これらのことから、光文書院を推薦したいと思います。ほかにご意見がありましたらお願いします。

(発言なし)

教育長 それでは、「保健」について採択をします。保健の教科用図書は、「株式会社光文書院」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

教育長 それでは、保健の教科用図書は、「株式会社光文書院」を採択することに決定いたします。次に、「外国語科」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 外国語科においては、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、外国語を使ったコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成が重視されています。現在使用している外国語科の教科用図書は、「株式会社新興出版社啓林館」でございます。全6社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「外国語科」の教科用図書について、委員の皆さんのご意見をよろしくお願いいたします。

岡田委員 私は主に、現在使用している啓林館のブルースカイと、三省堂のクラウンジュニアに注目して比較を試みましたが、結論としては、三省堂のクラウンジュニアがよいのではないかと思います。例えば、5年生の、啓林館は12・13ページ、三省堂は24・25ページ、学校での生活や教科、曜日について覚えましょうという単元で、どちらも非常に似た体裁ですが、啓林館はイラストのみである一方、三省堂はそれぞれのイラストに「フィードザラビッツ」や「プレーハイドアンドシーク」と、ちょっとした英語が書いてあり、縄跳びはジャンプロープっていうんだとか、プレータグって何だろうというような、気づきや好奇心のきっかけになる語彙が豊富にちりばめられている点が違うと思いました。その後も見ていきますと、個人的には啓林館の方が好みなのですが、聞くこと、慣れ親しむことに重点を置いていることが一見して分かりやすく、非常に入りやすい体裁だと思います。見開き2ページの右側のページ、「チャント」という部分も、英語独特のイントネーションやアクセントが分かりやすく良い印象を持ちましたが、現場の先生からは、聞いて話すだけで終わってしまい、なかなか指導に結びつかないという報告もいただきました。一方の三省堂ですが、単元をめくって26・27ページを見ると、見開き2ページで「レッツウオッチ、リスン、スピーク、プレー」と、まずは聞いて、それから簡単なフレーズを繰り返して、教室の中で友達ともう少し自由な会話をしてみると、見開き2ページの中で「読む、書く、聞く、話す」の4技能がバランスよく学べるようになっています。最初のうちはカードを置いて行いますが、5年生後半になっていくと、自分で英単語を書くようになっていきます。次をめくると、語彙や表現のバリエーションを変えてながら反復学習で知識の定着を図り、さらにもう一ページめくると、また違う語彙や表現のバリエーションを身につけ反復学習して知識の定着を図るようになっています。知識としての英語を教えていく狙いがはっきりしていて、指導する先生も教えやすいのではないかと思います。最後に、「ステップアップ」、あるいは「ジャンプ」といって、自由に書かせる、読ませる、話させるといった学習内容が盛り込まれており、狙いが特徴的です。慣れ親しんでスピーキングやヒアリングを重視する啓林館なのか、知識としての英語の定着を図る三省堂なのか、現場の先生方も知識として英語の定着を図るクラウンを推薦する先生が多いと聞いていますし、私も同意見です。

教育長 ほかにご意見はございますか。

阿部委員 私も、現行の啓林館と三省堂を比較してみました。啓林館は、岡田委員がおっしゃるように、聞き取りや会話のコミュニケーションを重視している印象を受けました。「アクティビティー」という箇所を書く欄もありますが、基本的には会話やコミュニケーションを重視したスタイルだろうと思います。また、二次元コードからタブレット端末で会話の発音等を学習できる点は非常に便利だと思います。その点で三省堂は、まだコンテンツが作成中ということで詳細を把握できませんが、同じように充実していただけたらよいと思います。三省堂は、体系的な勉強ができるような印象を受けました。先ほど岡田委員がおっしゃったように、見開き1ページの中で、「レッツウオッチ」から始まり、最後に「レッツリードアンドライト」で書く作業も学習できるようになっていて、非常に体系的に勉強できるのではないかと思います。また、リスニングを聞いただけで分かった気になって、学習が定着しないのでは困りますが、三省堂の場合は、振り返りという項目があり、最後に何を学んだか、子どもたちが意識するような欄が設けられています。これは学習の定着に非常に有効だと思いました。現場の先生方には、会話やリスニングだけで終わらせず、話す、聞く、読む、書く、4分野で全体的に学習能力を高めるという方向から、クラウンの方がよいという意見があると伺っていますので、三省堂を推薦してはどうかと思います。

教育長 ほかにご意見はございますか。

岡田委員 追加でお伝えしたいのですが、啓林館はリスニング教材で、英語を第一言語としない国の人たちのインタビュー教材が随所に使われています。いわゆるグロービッシュと言いますが、英語文化の広がり子どもたちに考えさせる狙いだと思いますが、これも非常に良いと思いました。一方で、三省堂は、登場人物の中にターニャさんやミン君といった、様々な民族の人がいるという設定にはなっていますが、啓林館ほどはっきりと打ち出されているとは感じませんでした。そういう点では、啓林館もすごくよいと思いました。

教育長 私も三省堂を推薦したいと思います。一点、東京書籍は子どもたちに書かせて覚えさせるという内容になっており、かなり高いレベルで進められると思いますが、一方で、書かせることによって時間が足りなくなってしまうことと、4観点でバランスよくできるのかどうかという点があり、その点で三省堂の教科書はバランスが良いと思います。啓林館は現在墨田区で使っており、一定の効果があつたわけですが、4観点をバランスよくやるのであれば、三省堂を推選したいと考えています。ほかに何かご意見ある方はいらっしゃいますか。

(発言なし)

教育長 それでは、「外国語科」について採択をします。外国語科の教科用図書は、「株式会社三省堂」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、外国語科の教科用図書は、「株式会社三省堂」を採択することに決定いたします。次に、「特別の教科 道徳」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いします。

指導室長 「特別の教科 道徳」においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが重視されています。現在使用している特別の教科 道徳の教科用図書は、「日

本文教出版社」でございます。全6社からの採択をお願いいたします。

教育長 それでは、「特別の教科 道徳」の教科用図書について、委員の皆さん、ご意見を
お願いいたします。

阿部委員 各社を拝見した結果、最終的に日本文教出版と東京書籍の2社の書籍を比較すること
にしました。結論としては、日本文教出版がよいと思います。まずは日本文教出版と東京書
籍の取り扱っている題材や人物を比較検討しました。それぞれ特色があり、どちらも遜色なく
すばらしい内容だと思えます。その中で、強いて申し上げますと、本区にゆかりのある題材とし
て、東京書籍の4年生に、「故郷を守った大イチョウ」という、押上の飛木稲荷のイチョウの
話が載っています。また、東京書籍の6年生で、東京大空襲に関連して、本区の相生病院の医
師たちの話が出ています。とても身近な題材なので、子どもたちが読んだら大変面白いだろう
という印象を受けました。なお、日本文教出版でも、3年生に、「これ、全部東京産」という題
で、亀戸大根や寺島ナスの話題も載っていますので、こちら子どもたちにとって関心がある
題材ではないかと思いました。特に私が比較したポイントとしては、本区でも非常に関心の高
いいじめの問題をどう扱っているか、また、最近SNS等では様々な問題が起きていますので、
情報モラルについてどう扱っているかの2点です。日本文教出版は、東京書籍と比べ、いじめ
問題に関しては繰り返し題材に扱っており、その都度意識を喚起するような工夫がされている
と思えます。情報モラルの関係ですと、日本文教出版は4年生でインターネットのやり取りの
こと、5年生でもSNSや携帯電話のマナー、6年生でSNSのマナーなどの項目を設け、詳
しく学習するように工夫しています。東京書籍でも、6年生で情報モラル、5年生で情報発信
する場合の注意点、4年生でSNSの問題などを扱っていますが、内容的には多少日本文教出
版の方が詳しく取り上げている印象を受けました。さらに、2社とも二次元コードで、各題材
に関しての登場人物の動画や情景などの画像を見られる工夫をしており、場面が具体的に設定
されているので、大変分かりやすいと思えました。それらのコンテンツでは、若干日本文教出
版の方が、情報量が豊富な印象を受けました。両社の大きな違いとして、日本文教出版では別
冊のノートがあり、各学年とも各項目に書けるようになって点です。これは大きな特色だ
と思えます。教科書を読んだり、あるいは先生から話を聞いたり、子どもたち同士で話し合っ
たりという作業があると思えますが、その場で終わらせるのではなく、自分の気持ちや気づい
たことを書き留めることで、新しい気づきを得られるのではないかと思います非常に有効な学習と
考えます。東京書籍もデジタルの画像でノートのようなものもあるのですが、果たしてデジタ
ルでうまく残したり、体系的にまとめられるかということ、少々難しいと思いました。この道徳
ノートで子どもたちが1年間、自分の気持ちを書き留めることで、先生も子どもたちの気持ち
や考えが分かりますし、保護者もそれを見ることで、子どもがどんなことを考えているのかが
分かると思えます。1年間書き留めたら、子どもたちにとっても大切な宝物になると思え
るので、ぜひこのノートを有効に活用していただけたらと思えます。そのような意味で、日本文
教出版の教科書を推薦したいと思います。

教育長 ほかに何かご意見はございますか。

岸田委員 私も日本文教出版がよいと思います。特に、悲しいかな、現在いじめは存在して
いますので、いじめの防止に関する教材がたくさんあるとよいと思います。日本文教出版は、
各学年で3回ずつ、定期的に学習する機会を設けています。また、法律との関連も詳しく書い

てあります。そして、1年生ではいじめの体験談や言葉によって傷つくという事例が、3年生では「たからさがし」という筆箱を隠してしまった話で、どこまでが悪ふざけでいじめなのかといった事例が出ています。4年生では「遠足の朝」で、グループ分けでその人は入れたくないという話に対して、そうした扱いを受けた子どもはどうするのかという話が出ています。学年が上がるに従って、自分の教室でも起きているのではないかと気づかせる内容になっていると思います。5年生の80ページでは、いじめが起きている状態の絵が載っており、いじめが自分の教室で起きたときに、どうすればよいのか考えるきっかけにもなると思います。6年生では「めざせ！情報モラルの達人」で、クイズ形式で自分はこんなことをしていないか確かめる内容になっています。東京書籍ももちろんいじめを扱っていますが、日本文教出版の方がより多く載っていると思います、日本文教出版を推したいと思います。

教育長 ほかにご意見はございますか。では、私から意見を話させていただきます。日本文教出版の教科書を現在は使用していますが、当初選んだ際は、いじめの題材が多いため採択しました。特に、いじめの典型例だけではなく、様々な角度から複数回にわたって取り扱っており、さらにこのノートで自分の考えを書かせることは非常に重要だと思います。ただ話し合うだけではなく、自分の考えを心と向き合って書くことで客観視することができます。このノートは決して誘導的ではなく、自分の意見を自由に書けるようになっていますので、そういった点でもかなり教育効果があるのではないかと思います。各社それぞれ素晴らしい内容だと思いますが、やはりいじめについての取扱がポイントになると思います。設問の仕方も誘導的ではないので、そうした点でも日本文教出版を推します。ほかにご意見はございませんか。

(発言なし)

教育長 それでは、「特別の教科 道徳」について採択をします。「特別の教科 道徳」の教科用図書は、「日本文教出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、特別の教科 道徳の教科用図書は、「日本文教出版株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、議案第33号は、以上のとおり採決することに決定いたします。

議決事項第2・・・資料番号【34-1～34-2】

議案第34号「特別支援学級用教科用図書採択について」を上程し、指導室長が説明する。

教育長 ただいまの説明について、何か質疑・ご意見はございますか。岸田委員。

岸田委員 検定の教科書、文科省の著作教科書、それから一般図書とありますが、全部タブレットに入っているということでしょうか。また、何冊くらいあるのか、教えてください。

指導室長 冊数ですが、令和6年度使用の目録では、文部科学省が著作の名義を有する教科用図書には、知的障害者用として、小学校が国語、算数、音楽が各1社ずつ、合計3点です。中学校が国語、数学、音楽が各1社ずつ、合計3点です。令和6年度使用特別支援教育教科書調査研究資料、一般図書は各教科により数が異なりますが、合計で699点です。

岸田委員 たくさんあるので驚きましたが、その中から、各学校で選ぶということですか。ど

のような基準で選んでいるのでしょうか。

指導室長 まずは児童の実態を第一に考えて検討していきます。同時に、保護者の意向も大事にしなければなりません。区で通常の学級が採用している教科用図書がどういうものなのかも参考にしながら、児童の実態と保護者からの意向等から総合的に判断をして、使用する教科用図書を選んでいきます。

教育長 ほかにございますか。

(発言なし)

教育長 それでは、令和6年度に特別支援学級で使用する教科用図書は、児童・生徒の能力及び興味・関心等を考慮し、一人一人の実態に合った教科用図書を使用する趣旨から、特別支援学校において使用されている、文部科学省が著作の名義を有する教科用図書及び「特別支援教育教科用図書調査研究資料」に記載されている、全ての一般図書を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第34号「令和6年度使用特別支援学級用教科用図書採択について」は、特別支援学校において使用されている、文部科学省が著作の名義を有する教科用図書及び「特別支援教育教科用図書調査研究資料」に記載されている、全ての一般図書を採択することに決定いたします。以上で、本日の議事は全て終了しましたが、そのほかに委員の皆さん、または事務局から何かございますか。

(発言なし)

教育長 ほかになければ、これで教育委員会を閉会します。